

広島市未来都市創造財団 可部公民館（2014年3月15日 10:00～）

広島学セミナー「戦後広島を支えた先人達：政治・平和運動編」

宇吹 暁（うぶき さとる）（専門：ヒロシマ学）

はじめに

* 「広島を支える」・「先人」・「人物」

* 平和公園（平）＝「平和の祈り」句碑＝「悲しみの 夏雲へむけ 鳩放つ」（中曽根康弘）

名誉市民（名）＝森戸辰男、愛宮真備（ラサール）、灘尾弘吉

＝平和の鐘 1964（昭和39）年9月20日「自己を知れ 森戸辰男」

・特別名誉市民（名）＝メアリー・マクミラン

谷本清平和賞（谷）＝平岡敬。

栗原貞子、森滝市郎、今堀誠二、江口保、吉永小百合、高橋昭博、坪井直、

中国文化賞、

1960年（第2回中国科学賞） 渡辺漸（白血病の研究）

1963年（第8回中国社会科学功労賞）

田頭新太郎（原爆犠牲者の遺骨収集、遺族の援護に貢献）

1964年（第9回中国社会科学功労賞）今城貢二（被爆社会事業関係組織の復興）

1970年（第27回中国文化賞） 志水清（原爆被爆者の疫学的、社会医学的研究）、

田淵昭（原爆被爆婦人の障害研究）

1973年第（30回中国文化賞） 山崎与三郎（原資料の収集と保存）

1977年（第34回中国文化賞） 松坂義正（原爆医療と被爆者援護を推進）

NHK 放送文化賞。（第1回 1949年徳川無声・宮城道雄・山田耕筰）

第9回（1957年）飯沢匡、第10回（1958年）杉村春子

第16回（1964年）森戸辰男、第34回（1982年）早坂暁

第38回（1986年）平山郁夫（シルクロード）、柳田邦男

第42回（1990年）高橋昭博（広島平和文化センター事業部長）

第43回（1991年）飯島宗一 第54回（2002年）日野原重明、吉永小百合

第57回（2005年）大石芳野（フォトジャーナリスト）

第64回（2013年）鎌田七男（広島原爆被爆者援護事業団理事長）

I 政治編

広島市長 濱井信三（平）、平岡敬（谷） 総理大臣 中曽根康弘（平）、

国会議員 森戸辰男（名）（N）、灘尾弘吉（名）

広島市平和記念式典と政治

『平和記念式典の歩み』1992年に出版した本。1996年に、NHKによる平和式典の実況中継のコメンテーターとして、最前列でこの式典の一部始終を見る。

その時の感想＝最も輝いて生き生きしているのは、総理大臣橋本龍太郎氏。

「平和式典がこれでいいのか、本当の主人公であるべきは誰なのか」

平和記念式典略史

第1回 1947年。～現在 1950年中止。平和宣言＝「人類絶滅観」

第1回からマスコミが高い関心を寄せる。被爆10周年 全国からの参加者
1953年5000人、1954年2万人、1960年皇太子（現天皇）参列
被爆20周年前後 閣僚の参列 1971年4月昭和天皇来広、8月佐藤首相参列
1979年～国庫補助

1. 広島市長

18 栗屋仙吉（～20年8月6日）市長公舎で即死。**19 木原七郎**（1945年10月22日～）
戦時中は大政翼賛会推薦代議士。1947年公職追放で退任。

濱井信三 第20・21代（1947年4月17日～） 第23・24代（1959年5月2日～）
平和式典創設者。「原爆市長」。広島平和都市建設法

渡辺忠雄 第22代（1955年5月2日～）

100m道路（平和大通り）建設計画の縮小・見直しを公約に掲げて当選。

原水爆禁止の文字が平和宣言に初めて現れたのは、第1回原水爆禁止世界大会が開かれた翌年、昭和31年（1956年）の渡辺忠雄市長のとき。

平和乃観音像＝建立年月日：1956年8月6日。建立者 中島本町会。制作者 荒井秀山（彫刻家）。形状 銅製の観音像。。台座正面に「平和乃観音」

碑陰に「嗚呼中島本町の跡昭和三十一年八月六日中島本町建之広島市長渡辺忠雄謹書」。

建設の目的 無くなった町に対する惜別の情と犠牲者への慰霊のため。

中島地区の公園内に最初に建てられた碑。

山田節男 第25・26代（1967年5月2日～）

戦後26年目の昭和46年（1971年）、山田節男市長は「次の世代に戦争と平和の意義を正しく継承するための平和教育」を平和宣言に明示。

平和の塔 1974(昭和49)10月30日。

韓国人原爆犠牲者慰霊碑 1970（昭和45）年4月10日。 堺町・本川橋西詰

荒木武 第27・28・29・30代（1975年2月23日～）

昭和57年（1982年）荒木武市長は、6月の第2回国連軍縮特別総会で提唱した平和のための世界的な都市連帯の呼びかけを、その年の平和宣言に取り入れました。今日では、この都市連帯の輪は、平和市長会議として世界153か国・地域の5,312都市（平成24年8月1日現在）に大きく広がっています。

ローマ法王平和アピール碑 1983（昭和58）年2月25日

平岡敬 第31・32代（1991年2月23日～）

平成3年（1991年）平岡敬市長は、「日本はかつての植民地支配や戦争で、アジア・太平洋地域の人々に、大きな苦しみと悲しみを与えた。私たちは、そのことを申し訳なく思う」

また、平成8年（1996年）の平和宣言では、包括的核実験禁止条約の合意が「核実験の全面禁止につながること」への期待を表明するとともに、被爆の実相を語り継ぎ、広く伝えていくために「平和文化の創造」と「被爆資料の集大成」を求めました。

平成9年度の平和宣言では、核兵器のない世界を実現するために、日本政府に対して「核の傘」に頼らない安全保障体制構築への努力」を求めると同時に、私たちが言語・宗教・習俗などの違いをこえて世界の人々と率直な対話を進めることの必要性を訴えました。

韓国人原爆犠牲者慰霊碑＝堺町・本川橋西詰から1999（平成11）年7月公園内に移設。

秋葉忠利 第33・34・35代（1999年2月23日～）、

平成11年（1999年）秋葉忠利市長は、被爆者が原爆の惨苦や絶望を乗り越え、ひたむきに核兵器の廃絶を訴え続けてきた足跡を称えた上で、核兵器は人類滅亡を引き起こす絶対悪であるとの真実に基づき、核兵器を廃絶する強い意志を持つことが何よりも大切であることを訴えました。また、宣言の歴史で初めて「です・ます調」の文体を用いました。

平成12年（2000年）の平和宣言では、戦争と科学技術の世紀であった20世紀を振り返り、憎しみや暴力の連鎖を断ち「和解」への道を拓くよう訴え、平成13年（2001年）には、21世紀最初の平和宣言として、21世紀を核兵器のない「平和と人道の世紀」にするため、和解や人道を重視する勇気を持つよう訴えました。平成16年（2004年）の平和宣言では、被爆後75年目に当たる2020年までに地球上から全ての核兵器を廃絶するために、「核兵器廃絶のための緊急行動」への支持を訴えました。

オバマ米大統領への平和式典参列要請

松井一實 第36代 松井一實（2011年4月11日～）

平成23年（2011年）松井一實市長は、被爆者の高齢化が進み体験を語れる方が少なくなる中、ヒロシマの原点である被爆体験や平和への思いを次世代、そして世界の人々に共有してもらうことが重要であると考え、初めて、被爆者から頂いた被爆体験談を直接盛り込みました。

2 内閣総理大臣（I政治家.）

総理大臣の参列

佐藤栄作（1971年） 三木武夫（1976年）、鈴木善幸（81）、（総理参列の慣例化）、中曽根康弘（83、85、87）、宇野宗佑（89）、海部俊樹（90、91）、村山富市（94、95）、橋本龍太郎（96、97）、小渊恵三（98、99）、森喜朗（2000）、小泉純一郎（01～06）、安倍晋三（07）、福田康夫（08）、麻生太郎（09）、菅直人（10、11） 野田佳彦（12）、安倍晋三（13）

内閣総理大臣のあいさつ

1971年のあいさつの骨子

- (a)原爆犠牲者への弔意表明、(b)都市建設と平和に努力する広島市民への敬意表明、
- (c)国際状況と日本平和外交の紹介、(d)被爆者対策充実の決意表明、
- (e)恒久平和達成への努力の誓い

1996年 「平和憲法」→「日本国憲法」

「平和の祈り」句碑（＝資料：「慰霊碑解説のしおり」（『被爆体験証言者交流の集い』編）掲載せず。

国連事務総長

2010式典；潘基文（バンキムン）事務総長、ジョン・ルーズ駐日米国大使。英国とフランスの代表が初参列。各国代表は、過去最多の74カ国。

II 平和運動関係者

湯川秀樹（平）

平和の像「若葉」（湯川秀樹碑）1966（昭和41）年5月9日

「世界科学者会議（パグウォッシュ会議）を開催するなど核兵器と戦争の廃絶を訴え続けました」

原爆の子の像 1958（昭和33）年5月5日

（こどもの日）建立者：広島平和をきずく児童・生徒の会。塔の内部には、子どもたちの気持ちに感動したノーベル物理学賞受賞者の湯川秀樹博士の筆による「千羽鶴」、「地に空に平和」の文字が彫られた銅鐸を模した鐘がつられ、その下に金色の鶴がつるされ、風鈴式に音が出るようになっています。（この鐘と鶴は2003（平成15）年に複製されたもので、オリジナルは広島平和記念資料館東館1階ロビーに展示されています。）

財団法人ヒロシマ・ピース・センター 谷本清平和賞選考基準

ここに示す「谷本清平和賞」の選考基準は、谷本清牧師がヒロシマ・ピース・センターの設立に努力し、平和・愛・奉仕の具現化を図ってきた数々の功績を継承発展させようとして設けたものである。ここに「谷本清平和賞」の選考基準を次のように定める。この基準は、ヒロシマ・ピース・センターが「谷本清平和賞」の該当者を世界に求めその選考を行うものである。賞に該当する事項は、下記の通りとする。

1.原爆被災者で人間愛、平和のために奉仕した人 2.原爆とのかかわりにおいて、反核平和に貢献した人または団体 3.原爆被災者救護、孤児収容等の養護（医療を含む）施設を設けて養護に尽くしている施設及び団体。 4.間愛に基いて養護施設等を設け、奉仕している人または団体。 5.宗教・文芸・平和教育・学術研究・医療・平和運動・被爆の証言活動等を通して平和に貢献した人または団体。

第1回 1987年 ノーマン・カズンズ 第2回 1988年 フロイド・シュモー 第3回 1990年 栗原貞子 第4回 1991年 森滝市郎 第5回 1992年 今堀誠二（広島女子大学学長） 第6回 1994年 ジョン・ハーシー 第8回 1996年 金信煥（在日大韓・広島教会名誉牧師） 第9回 1997年 村井志摩子 第10回 1998年 江口保（教師） 第11回 1999年 伊藤隆弘（劇作家） 第13回 2001年 河本一郎 第14回 2002年 中沢啓治 第15回 2003年 吉永小百合 第16回 2004年 平岡敬 第17回 2005年 新藤兼人 第20回 2008年 高橋昭博 第21回 2009年 平野伸人 第23回 2011年 坪井直 第24回 2012年 碓井静照 第25回 2013年 小倉桂子（平和のためのヒロシマ通訳者グループ代表）

藤居平一＝略歴 1915年8月7日、広島市の銘木店の長男として誕生。45年8月、広島への原爆投下で父と妹を失う。中国大陸から復員後、早稲田大を卒業。56年8月、日本原水爆被害者団体協議会初代事務局長。96年4月17日、病のため死去。80歳。